

I ドクイトグモ

【国内における確認状況】

- ・国内で見つかったことはない。

【生態：生息地など】

- ・暗く、風雨の影響がない所や、割れ目に主に見られる。
- ・建築物や室内にもしばしば見られる。
- ・クモやアリを含む節足動物全般を捕食する。
- ・比較的乾燥した場所を好む。



【形態：大きさや特徴】

- ・7～12mm(雄の平均 8mm、雌の平均 9mm)
(体長とは、頭部の先から腹部の先までの長さであり、足の長さは含まない)。
- ・脚は細長く、くすんだオレンジ色～赤褐色である。
- ・3対(6個)の目が背甲の前縁にU字型に並んでいる。
- ・雌雄とも腹部は茶色から焦げ茶色を呈する。
- ・背甲は薄黄色から赤褐色であり、バイオリンの形をした模様がある。
- ・雌の歩脚は第2歩脚が18mm以上と最も長く、第4、第1、第3歩脚の順で短くなる。
- ・雄の歩脚は第2歩脚が24mm以上と最も長く、第1、第4、第3歩脚の順で短くなる。
- ・幼体は体色が薄い。

【原産地】

健康被害の具体例

- ・原産地はアメリカ合衆国の亜熱帯地域(テキサス州からジョージア州)。

- ・咬まれたときに一過性の刺すような痛みがある。

- ・初期段階(刺咬後0～2時間)：顕著でない水疱形成、他の咬傷に似ることが多い。

周囲に異常な浮腫と紅斑がほとんど診断できない程度に出現する。小型の水疱が形成される場合がある。

- ・虚血段階(2～6時間後)：最初の診断できる症状として咬傷部位の周囲に虚血域がみられる。

明らかに毒の作用である。中等度あるいは激しい痛みが始まる。

- ・チアノーゼ段階(5～12時間後)：虚血部は徐々に赤から青黒くなる。

血管収縮の拡大と局所組織の酸素欠乏が伴う。この段階の初期には、病変は咬傷部位の著しい酸素欠乏の進行拡大により無感覚になっている。刺咬部位の周囲に出血や紅斑を生ずる。全体に浮腫性となり、四肢の場合はしばしばリンパ管炎を起こす。

・**組織破壊段階（12 時間以上）**：組織の酸素欠乏から局所組織の破壊と壊疽が進行する。

一般にこの段階では、病変部は無感覚である。25 % の患者に、24 ～48 時間のうちに全身症状が現れる。

中等度の発熱、嘔気、不快感、重症の場合は嘔吐、関節痛、せん妄、ショック、昏睡になり、

全身に麻疹様掻痒性、あるいは出血性皮疹が出現する。小児はしばしば重症になりやすい。

全身症状を伴う場合は、2 ～3 時間から数日のあいだに溶血が起こる。

そのために血尿、ヘモグロビン血症、血小板減少症、黄疸、ネフローゼ、または白血球増加症、タンパク尿もみられる。

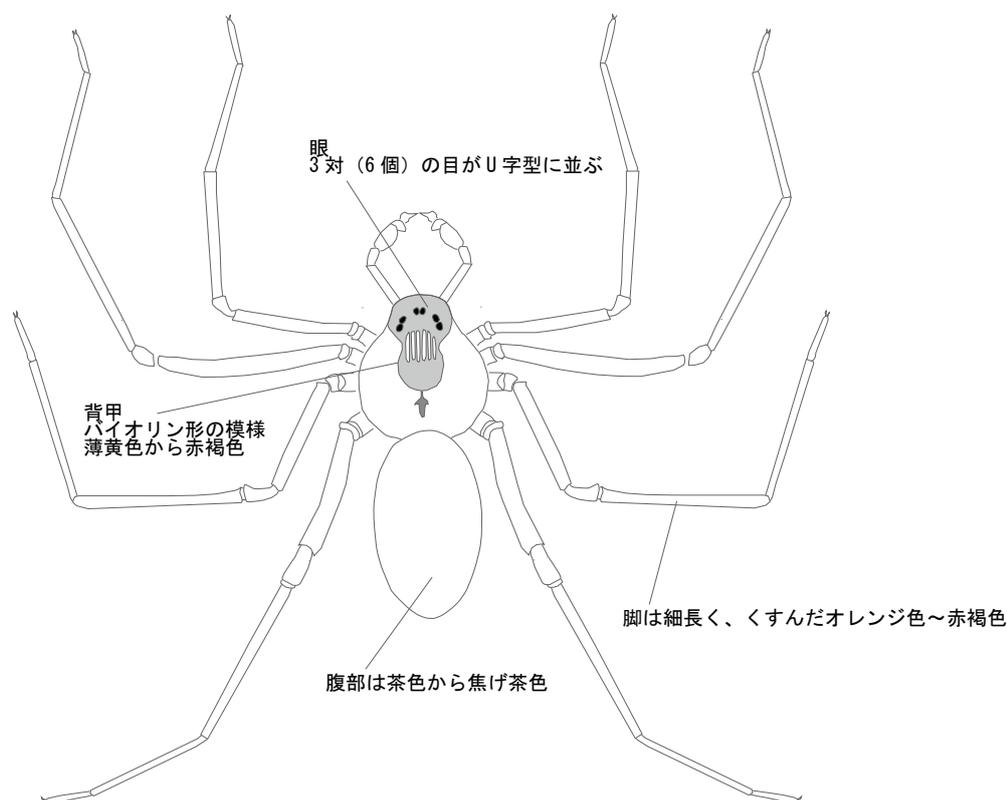
米国では 1998 年までに少なくとも 126 例のドクイトグモ刺咬症が報告され、高齢者や幼児では

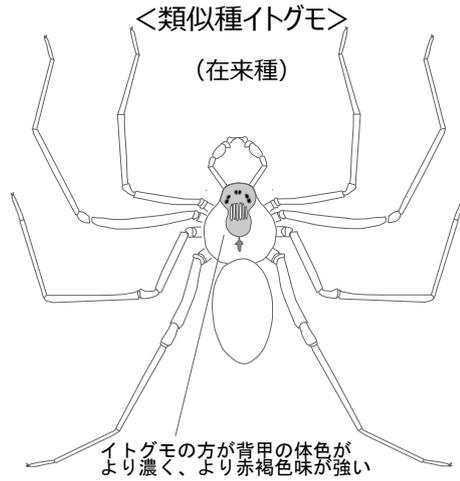
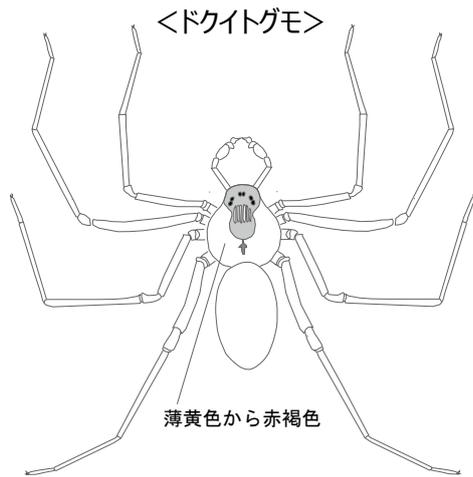
まれながら死亡例がある。

被害を受けた場合の対処法

特徴・間違えやすい類似種との識別点

・医療機関を受診





特定外来生物指定の他のロクソスセレス属 2 種（イエイトグモ、ブラジリートグモ）も形態的に酷似しており、背甲の模様のパターンや体色に違いが認められるものの、種の判別には生殖器や触肢の形態から判断する必要がある。



【類似種の特徴】

類似種：イトグモ (*Loxosceles rufescens*)

["Female Emperor Scorpion" By Vijay Anand Ismavel](#)



イトグモ類と同じく、3 対(6 個)の目が U 字型に配列

イトグモ科と類似の特徴を持つ種 (1) ヤマシログモ科

["P1030458v1-cellar-spider" By Donald Hines](#)





イトグモ類と同じく、
バイオリン型の模様

イトグモ科と類似の特徴を持つ種 (2) ヒメグモ科(写真はホクオウヒメグモ)

["Platnickina tinctoria" By Phil](#)



駆除方法

- ・クモの駆除には、有機リン系の殺虫剤が有効である。
- ・人家内ではナフタレンを家具の隙間や中に入れておくと効果的である。
- ・米国では室内に定着しているイトグモ類の駆除に粘着性のトラップが商品化されている。

[➡ 危険な外来生物 Web サイトへ](#)

この資料についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

東京都環境局 自然環境部計画課 / TEL 03-5388-3548 FAX 03-5388-1379

[5]

このページの内容の一部は、Flicker 等が提供しているコンテンツを利用しており、クリエイティブ・コモンズの表示ライセンスに記載の条件に従って使用しています。

本サイト上の文書や画像等に関する諸権利は東京都に帰属します。本サイト上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。

Copyright©2016 Bureau of Environment.TMG. All Rights Reserved.